



pixta.jp - 69912816

発達障害特性とは？

多様性を受け入れ、共生社会の実現を
めざすためには



内容

Contents
—
—
—
—
—
—

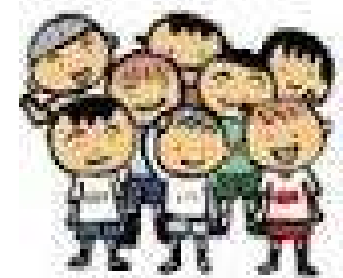
1. 特別な支援を必要とする子どもたち
2. 子育て、私の考え
3. 発達障害特性とは？
4. 事例で学ぶ対応いくつか
5. 発達障害女子、二次障害など
6. 大事なことは「自己理解」そして支援
7. 最後に一言



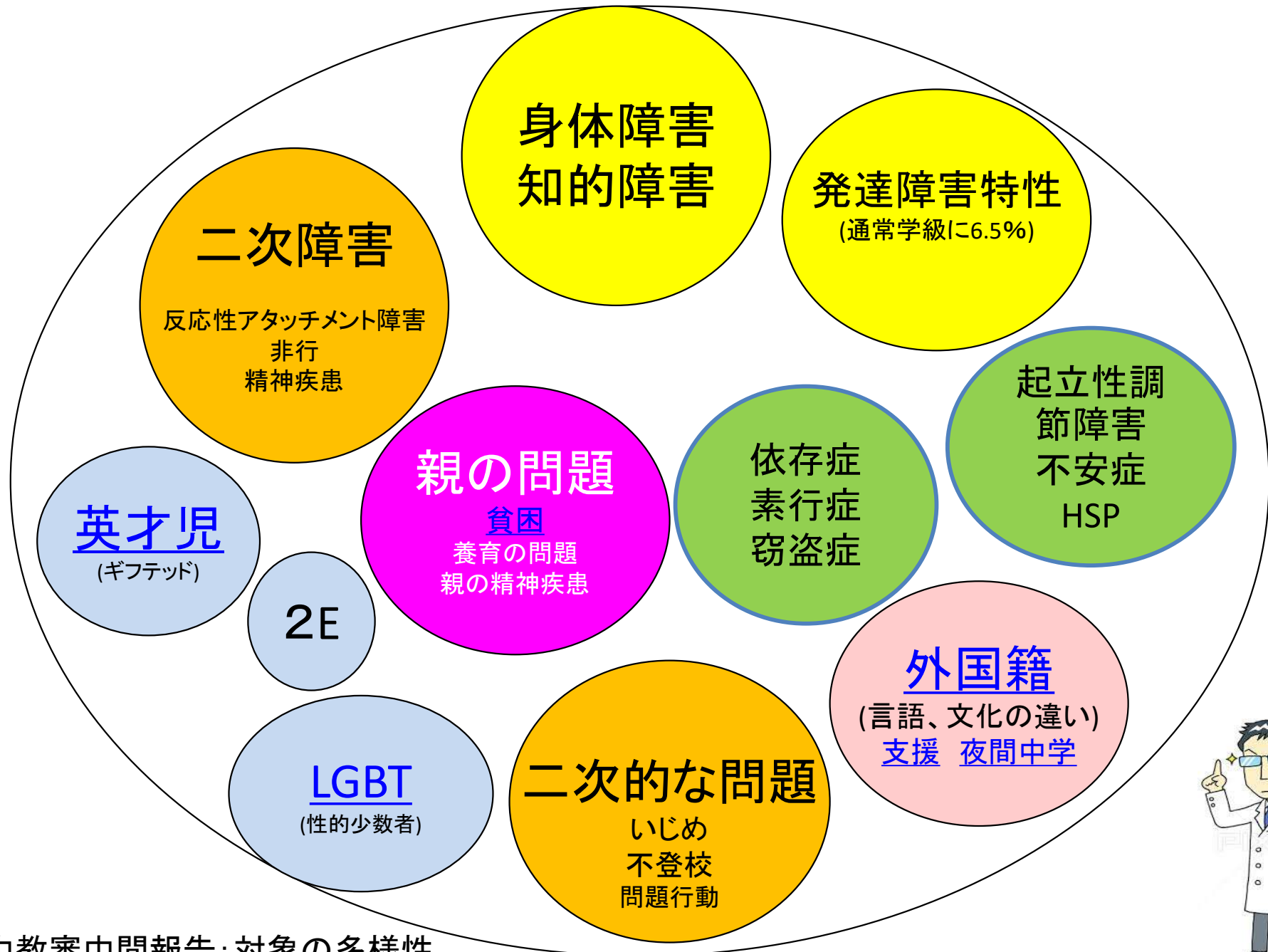
← 重要なスライドです

1. 特別な支援を必要とする 子どもたち

障害だけではない、
多様な教育的ニーズ



特別な支援を必要とする多様な子どもたち(例)



事例：ユウト



- ユウト(小学生。仮名)の知能指数(IQ)は146(標準値は100)
- 教科書や教師の説明、練習問題など一度聞くと(読むと)すべて理解でき、ノートをとることはしなかった。教師や周囲の児童からノートをとるように言われたり、ノートをとらずに何もしていないことをとがめられたりすることから、登校しぶりが始まった。

できすぎるがゆえに、同年齢集団と合わず、
「浮きこぼれてしまう」

起立性調節障害

- 低血圧で頭が痛く朝起きられない、めまいがして立ってられないなどの症状を示す思春期に好発する自律神経機能不全の一つ
- 朝に強く症状が出、夕方に元気になり、睡眠時間など生活リズムが乱れるなどの状態が見られる



「怠け者」と誤解され、苦しさやつらさを理解してもらえない

イチカ(中学生)

- イチカ(女子)は光や照明など、明るい状態が苦手。
- さらに、ほんの小さな環境音(イスを引きずるなど)が耳障りに感じます。
- 特に苦手なのが教室内の臭い。制汗スプレーや柔軟剤の臭いが全くだめ
- 完璧主義的な特性がみられます。
- 完全不登校です。



感覚の過敏性(HSP/C)

- 生まれつき刺激に敏感で、周りからの刺激を過度に受け取る
- 刺激に対して過剰に反応することで、環境の変化やちょっとした刺激も極度に気になるという状態





対応のポイント

1. 自己理解・周囲の理解

- 特性の理解と受容
- 本人のつらさを理解する努力を

2. 合理的配慮

教師の熱意だけでは子どもは救えない

- 本人中心の個別計画作成と実行
- ICTの活用

対話で一緒に考え実行

3. 教育の場の提供

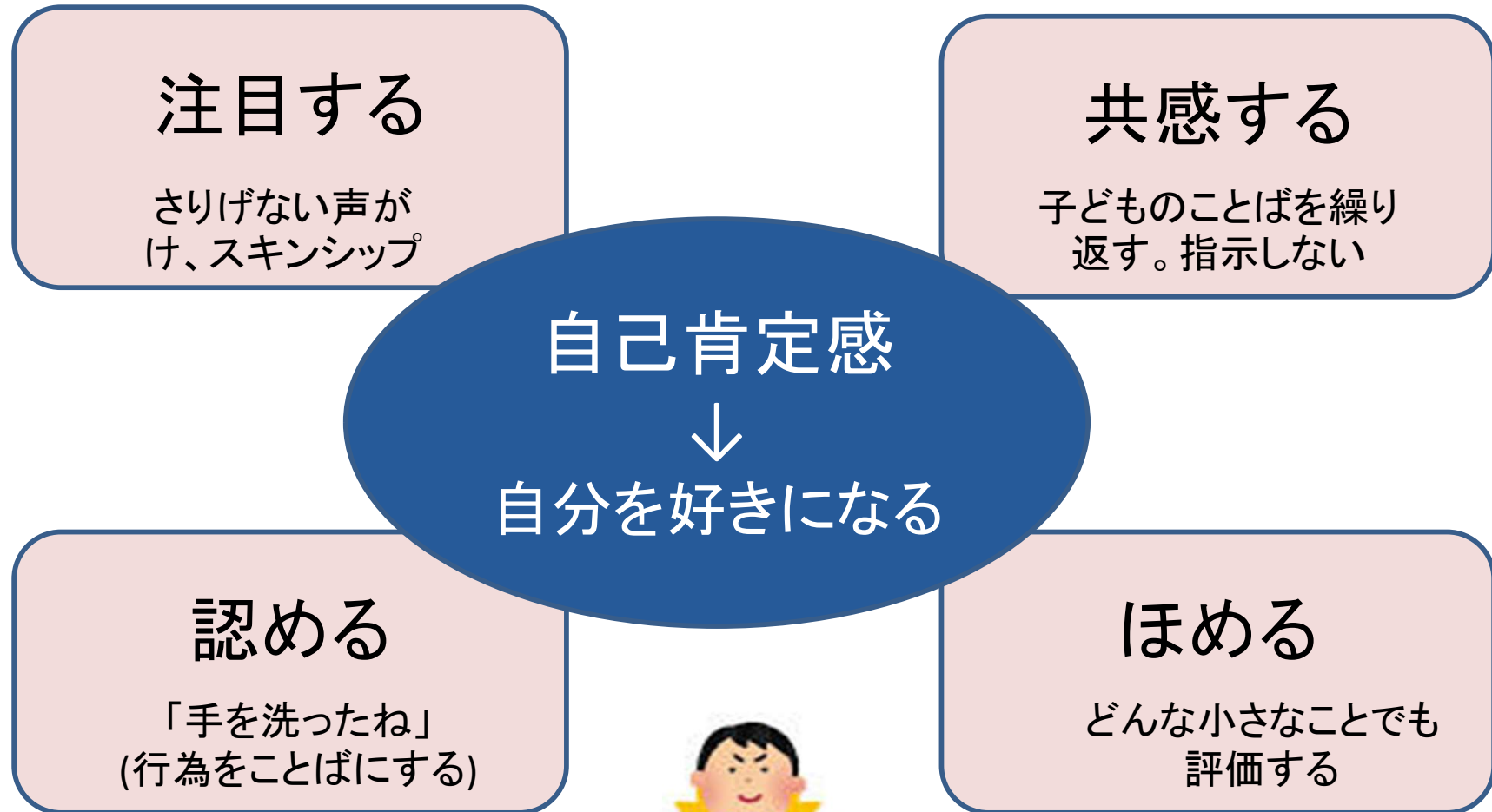
- 特別支援学級、通級指導・適応教室
- 指導が生かされる生活の場

思い切った対応を考え、実行。リモート授業など

2. 子育て、私の考え



2-1 自己肯定感を高めるかかわり



2-2 自己決定の重要性

- 昭和の教育観
 - 大人の言う通りにしていれば「いい子」
- 令和の時代は自分で人生をきめる
 - 進路、仕事、結婚相手
- きめ方、選び方、解決の仕方を一緒に考える



「子どもの自由に」は誤り
子どもにわかるように説明し、気づきを促す

「お出かけするけど、電車にする？ バスにする？」

「電車だと10分で着くけど15分歩くよ」

「バスは25分かかるけど、バス停からすぐ」

2-3 ほめる



ことば	もっといい言い方
すばらしいね (とてもよくできた)	すごい。 全部できたね
がんばったね (まあまあ)	今度は3つのうち 2つもできたね
じょうできたよ (あまりよくなかった)	〇〇をすれば こんどは必ずできるよ

例:「テーブル拭いてくれたんだ、ありがとう。やすみを拭けば百点だよ」



2-4 叱る

- 人を責めない、行為を責める

「出したものを片付けないことが、いけないんだよ」

- ルール違反であることを告げる

○「約束と違うよ」、×「だめじゃない、そんなんじゃあ」

- 感情的にならず、冷静に

クールダウンの方法をきめて実行する

- 指摘はひとつに限定

×「だいたいあなたはね、いつも・・・」

罪を憎んで、子どもを憎まず。ほめる叱るの黄金律



2-5 親子の対話

- 子どもと、直接のコミュニケーションを大切に

今から対話を習慣化する

- 子どもの話によく耳を傾け、

まず、「聴く」、から始めること

- 子どもの生活に関心を持ち、

「見守り」の精神で。

- 子どもの気持ちを受け止めてあげること

直接のコミュニケーションで、スマホ依存に勝てます！
スマホは子どもの話を聴いてはくれません（聞くことはできる）

3. 発達障害特性

基本的対応
あれこれ



学習障害(LD)

- 聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態
 - 身体障害、知的障害などの障害がない
- 医学的には、読み障害、書字障害、算数障害などが知られている

LD とは知的な遅れのない学習困難
教科学習が始まってみないとわからないことが多い
移民など、文化的多様性(Freeman-Green,2021)

読み障害について



- 読み障害リスク

語彙の少なさ、短期記憶の弱さ、ネーミングスピードの遅さ、しりとり(?)

- 幼児に読み書きの指導は必要か？

遊びや日常生活の中で、楽しみのひとつとして教える

- どんなかかわりがいいのか？

寝る前の昔話、なぞなぞ、本の読み聞かせなど

- 避けたいこと

視覚情報の与えすぎ、動画やゲームの習慣化。早期教育？

注意欠如多動障害 (ADHD) とは

- 不注意
 - 不注意、注意の持続の困難
 - 聞いていない、物事をやり遂げられない
 - 順序立てられない、物をなくす、忘れる
- 多動
 - もじもじする、座ってられない、高いところに上がる
 - 静かに活動できない、しゃべりすぎる
- 衝動
 - すぐ答える、順番を待てない
 - 他人を妨害する、がまんできない、ゆっくり活動できない

ADHDとは自分の行動が抑制できない障害

ADHDによく見られる特徴

• ぼんやり、注意散漫タイプ

声をかけられても気がつかない、話を聞いていない(他のことに注意がむく)、自分の作業より他人のことが気になる、遊びが持続しない、食事に集中せずに遅い、ものやおもちゃを置き忘れる

• キレやすく衝動的なタイプ

おしゃべり好きで話に割り込む、集団活動で順番が守れない、ものの貸し借りが苦手、食べながらもおしゃべり、一定の場所にじっとしていない、すぐに飛び出す、すぐに乱暴する、乱暴なことばづかい

• 混合タイプ

ぱっと行動しすぐに別の動きが出る、座っていても指遊び手遊び、興味が次々に移る、常に動き回りちょっかいを出す、いただきますが待てない、好きなことには集中する

ADHDは一様ではなく、さまざまなタイプがある

大人のADHD(一例)

- 自己管理の弱さ
 - 時間、金銭、買い物、家事
- 正義感が強いがすぐにけんかになる
- 思いつくとすぐに行動するが遂行できない
- 集中力が持続しない
- 感情にムラがある
- アルコールや薬物依存ハイリスク(US)

あくまでも一般的な傾向であり、
みんなに当てはまるわけではない

ADHDへの対応



ブレーキをかける、維持する、褒める

- 事前の約束と確認

約束: 時間になったら座る。「先生との約束、覚えてるよね？」

- 活動中の声かけ

「ちゃんと座っているね」「先生との約束、守っているね」

- 活動終了時の振り返り

「今日はちゃんと座っていて、いい子だったよ」

- 段階的に時間(期間)延長

一つの活動 → 午前中 → 一日 → 今週

事前、活動中、事後に対応 = ブレーキをかける

集中できる環境・条件

- 気が散らずに集中できる教室

壁面を簡素化し、整理整頓を徹底。カーテンで隠す、必要なときだけ提示

- 集中できる場所、位置

座席の配置。保育士との位置関係。他児との位置関係

- 必要なときには個室を使う

集中すべき時は別室。教室の隅で。ついたてを立てて。

- 活動にメリハリをつける

静・動の繰り返し。集中を促したら集中やめ。ブレイクタイム

本人の努力だけでは限界がある。支援の提供を！

自閉スペクトラム障害 (ASD) とは

1. 社会的コミュニケーション、相互作用の障害
 - 社会的感情の相互関係の欠如 (失感情症 Brett(2021))
 - 非言語コミュニケーションの問題
 - 年齢相応の社会関係の困難さ
2. 行動の特異性 (同一性保持、こだわり)
 - 儀式的行動
 - 常同的な反復行動
 - 感覚の特異性(92%)
 - 興味関心の特異性、狭さ

DSM-Vによる

は [映画](#)

相手の気持ちを推測する、理解する、共感する
相手の気持ちが自分に伝わる・同じ気持ちになる

の障害

- 社会的感情の相互関係の欠如 (失感情症 Brett(2021))
- 非言語コミュニケーションの問題

表情の読み取り、服装や髪型などから相手の状態を
推測する、ことばの奥に隠された意図を読み取る、
空気を読む

- 常同的な反復行動
- 感覚の特異性(92%)
- 興味関心の特異性、狭さ

DSM-Vによる

知的能力が高いASDの特徴

- 場の空気が読めない(嫌がっているのに気がつかない)
- 暗黙のルールがわからない(順番に話す、など)
- 思ったことをすぐ口にする(「どうしてハゲてるの?」)
- 話が一方的である(自分の興味のある話だけ)
- 昆虫の名前、国旗など抜群に記憶力がいい
- ひとりで遊んでいることが多い(一人遊び、マニアックな遊び?)
- 変化を嫌う(ものや行為へのこだわりがある)
- 急に予定が変更になるとパニックを起こす

能力の著しい偏りから、対人関係、情緒の問題を引き起こす
適応行動とIQの不一致(Tamm,2021)

大人のASD

- 場の空気が読めない(引いているのに気がつかない)
- 話題が共有できない(自分の興味のある話を放り込む)
- 相手の立場に立って考えられない
- 強いこだわりがある(商品、道順、番組など)
- 抜群に記憶力がいい(データ、時刻表、戦隊ものなど)
- マニアック(?)な趣味(ビデオデッキ、架線、地下鉄の音など)
- スケジュールを忠実に守る(パターン化した日課)
- 急に予定が変更になるとパニックを起こす

能力の著しい偏りから、対人関係、情緒の問題を引き起こす
うつや不安症など二次障害になりやすい

ASDへの対応



指導の基本①: 簡素化

- 環境の整備、設定

活動に必要な物だけを置くこと

- 課題の始まりと終わりがわかるように

がんばって最後まで → 「5枚貼りましょう」

- 結果に対して素早く対応

「それでいいんだよ」「違います。〇〇だよ」

- 成功には賞賛、ご褒美(ポイント)を

設定も課題も対応もシンプルに

指導の基本②見て理解できるように

- スケジュール表を活用する
- 絵に描いて説明する
 - 絵カード、4コマ漫画
- 文章にして教える
 - ソーシャルストーリー
- 話を図に整理して考えさせる
 - 認知行動療法

療育教室



視覚教材は他の子どもにとってもわかりやすい
音声ガイダンスという方法もある

かんしゃく

- 子どもの実態：情報がそろっていない(部分部分欠けている)、整理できていない、相手の意図を読めていない、その結果動けない・説明できない
- 必要な情報を一つ一つ視覚化し(ホワイトボードなど活用)、子どもに確認し、情報をわかりやすく説明して、どうすればいいのかを一緒に考える



お父さんの言ったこと

お父さんの気持ち

いいかげんにしなさい！

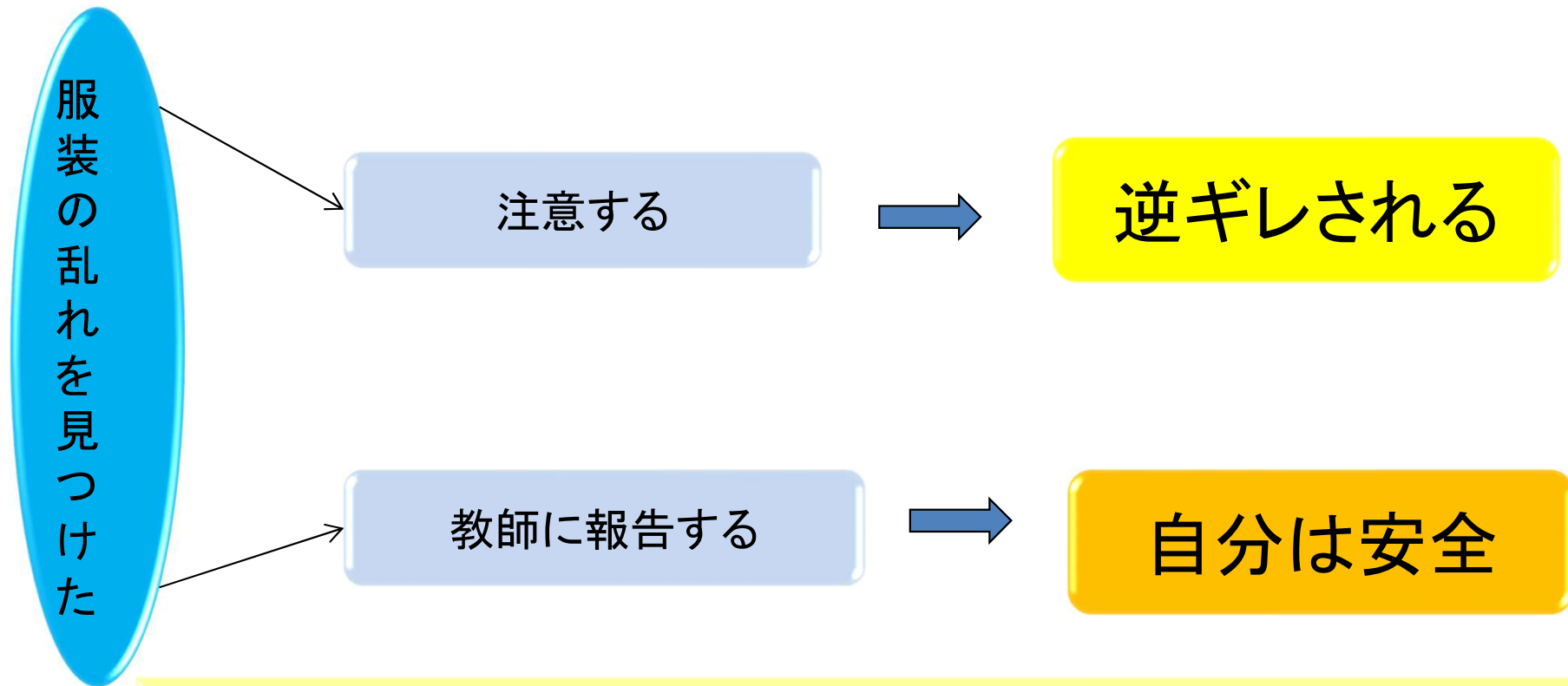
言われなくても宿題を
やってほしい

私：
明日から、言われなくても
宿題をする

事例



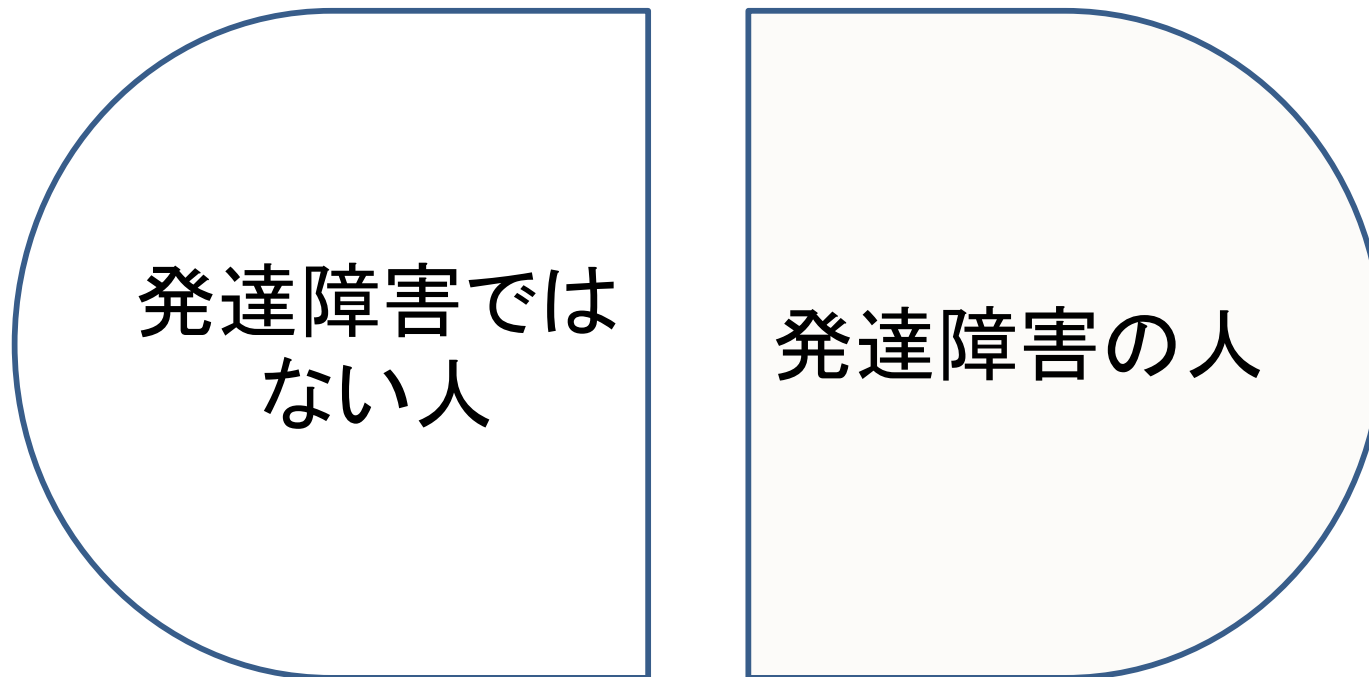
(例)本人の訴えを聞き、自己選択支援



本人の意見と、通常の結果を比べ、
どうするか(どちらが自分にとって利益になるか、不利益
か)を今一度考えてもらう

Gosling(2018);Mosner(2017)

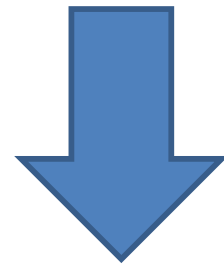
どこが違うんでしょうか？



境界線がある？ ない？



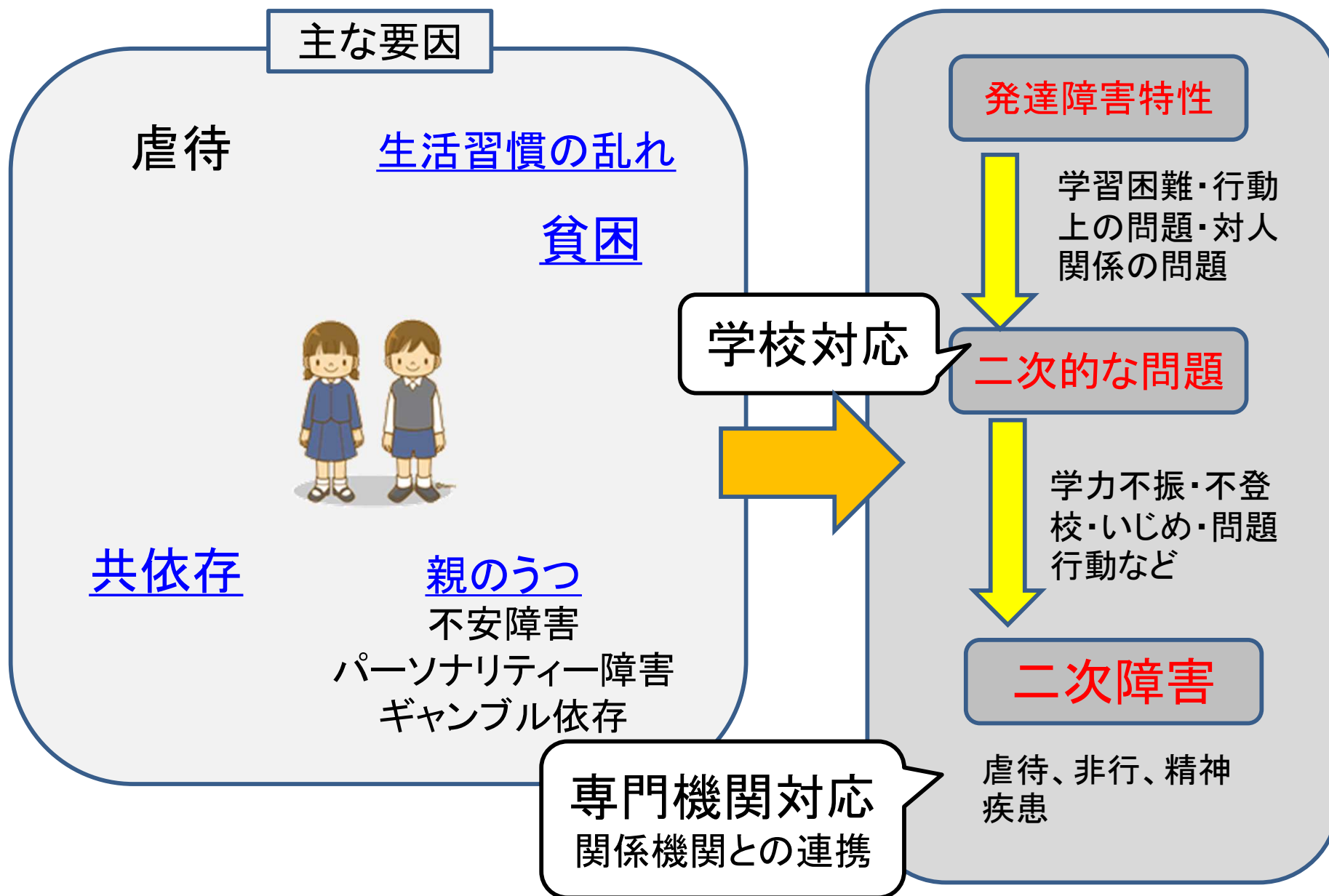
特性が強く、
本人が生きにくさを感じ、
周囲に理解してほしい



発達障害という診断



発達障害特性の要因と二次的な問題・二次障害



共依存



- 昔: 母子分離不安
- 母親の自己肯定感低い(Schulz,2018)
 - 世話のやきすぎ→過保護→子どもの自立阻害→
 - 発達障害のように見える。自己肯定感低い (Huey,2020)
- 対応
 - 母子の自立支援(子どもだけ、はうまくいかない)
 - 父親の考え、態度を変える

ハルト(幼児)



- ハルトは、どんな活動でも落ち着きがなく、気に入らないことがあるとすぐに乱暴するので、担任はADHDを疑いました。
- 担任からの相談を受けた園長は、ADHDのに対応した過去の経験が通じないことに違和感を覚えました。
- ハルトが声の大きい男性保育士には従順でおとなしいこと、何かと嘘が多い(巧妙に大人をだます)ことです

反応性アタッチメント(愛着)障害

- 生後5歳未満までに親やその代理となる人と愛着関係が持てず、人格形成の基盤において適切な人間関係を作る能力の障害
- 二つの群
 - 抑制型: 人とかかわろうとしない。ASDに類似
 - 脱抑制型: 落ち着きがない、整理整頓が苦手、すぐけんかするなど。ADHDに類似

(ADHDとの区別がむずかしい)

RAD: 裏表がある。人の顔色をうかがう。巧妙にウソをつく。
親がいるいないで態度が違う。大人: 対人関係の困難さ

RADへの対応

- 疑わしきは児相に通報を

虐待は違法であり、止める義務がある

- 児相と連携して対応

園が中心ではない。保育には限界がある

- 園ができることを実施する

子どもができることを認め、自己肯定感を育てる

ADHDへの対応とは違った対応が必要です
マイナスからのスタート。心のケア(信頼関係の構築)

4. 事例で学ぶ対応いくつか



事例(かんしゃく)

- ハルカ(ADHD)は、何か気に入らないことがあつたり、うまくいかないと母に当たり散らします。理不尽な言いがかりをつけます(この服気に入らない、弟がじゃまするなど)
- 一つ一つ説明するのですが、その都度違う不満を口にし、納得しません。
- ハルカの母は、困っています。

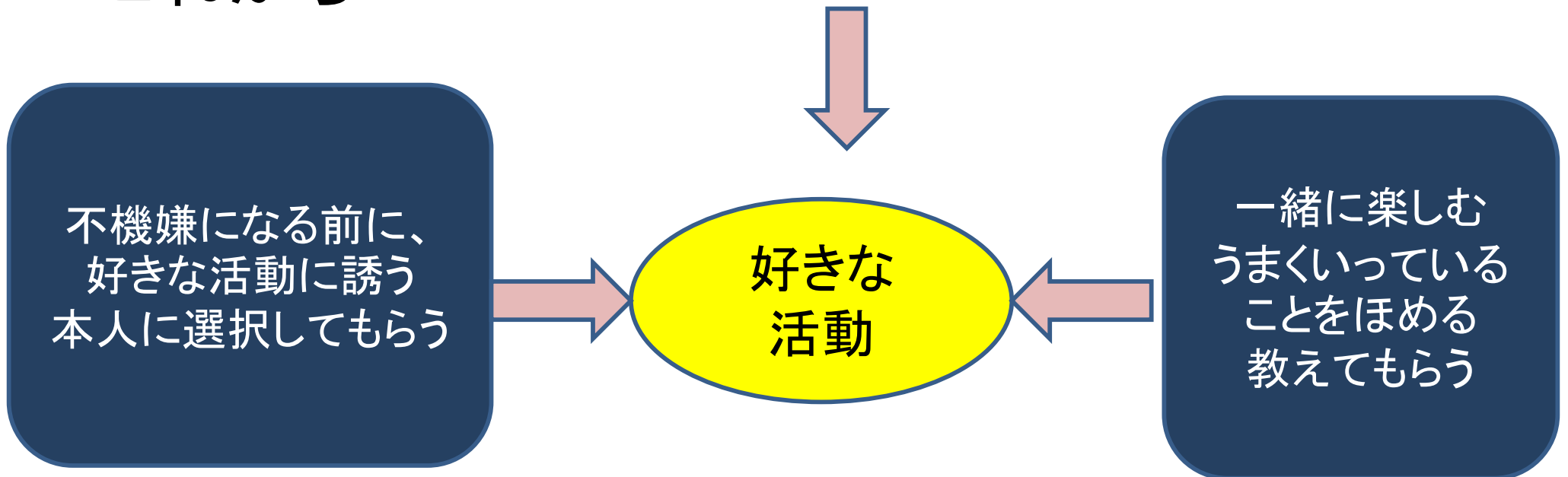


事例への対応

- 現在



- これから



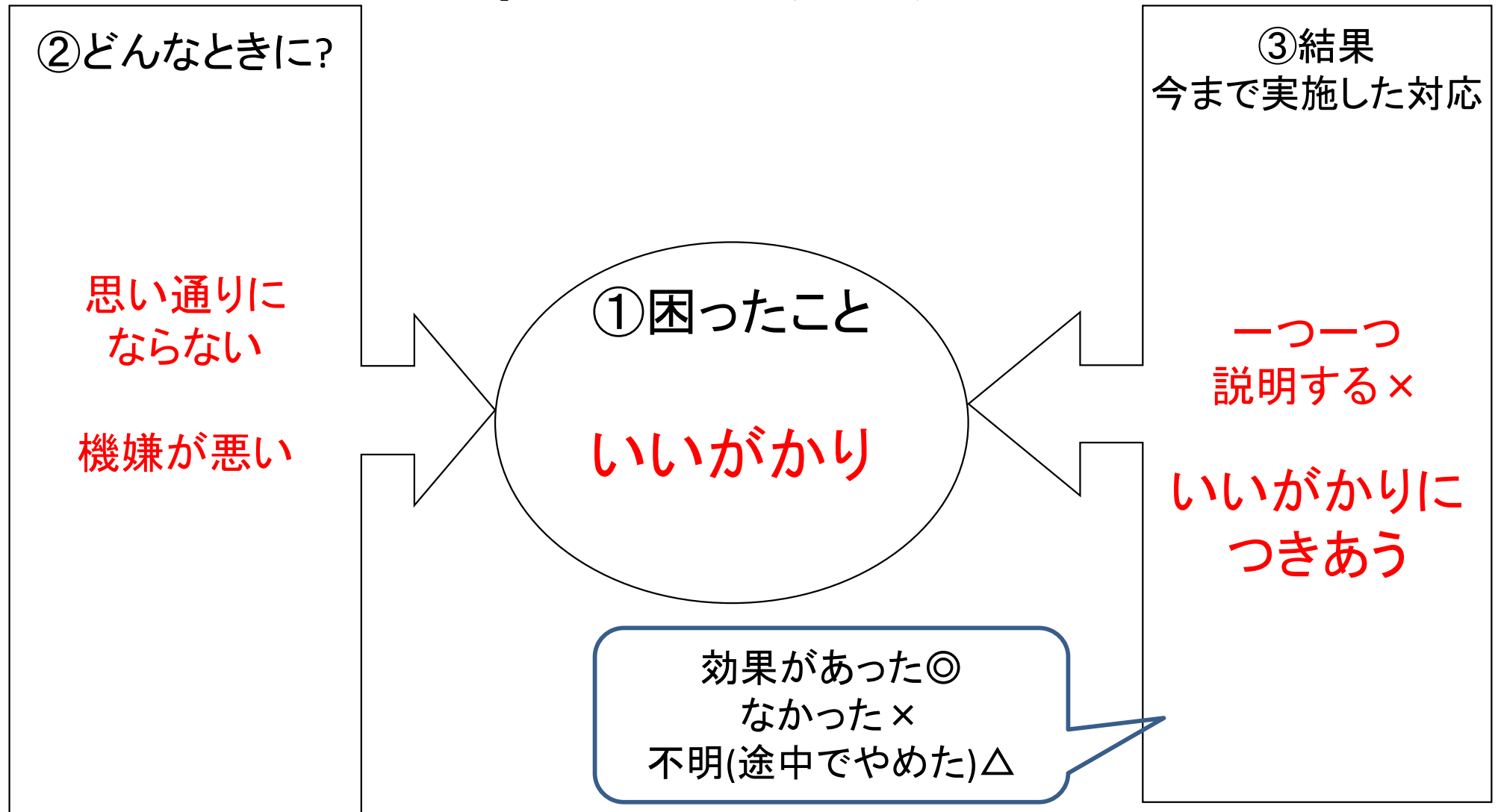
かかわりを求めているのかもしれない

応用行動分析 (ABA)

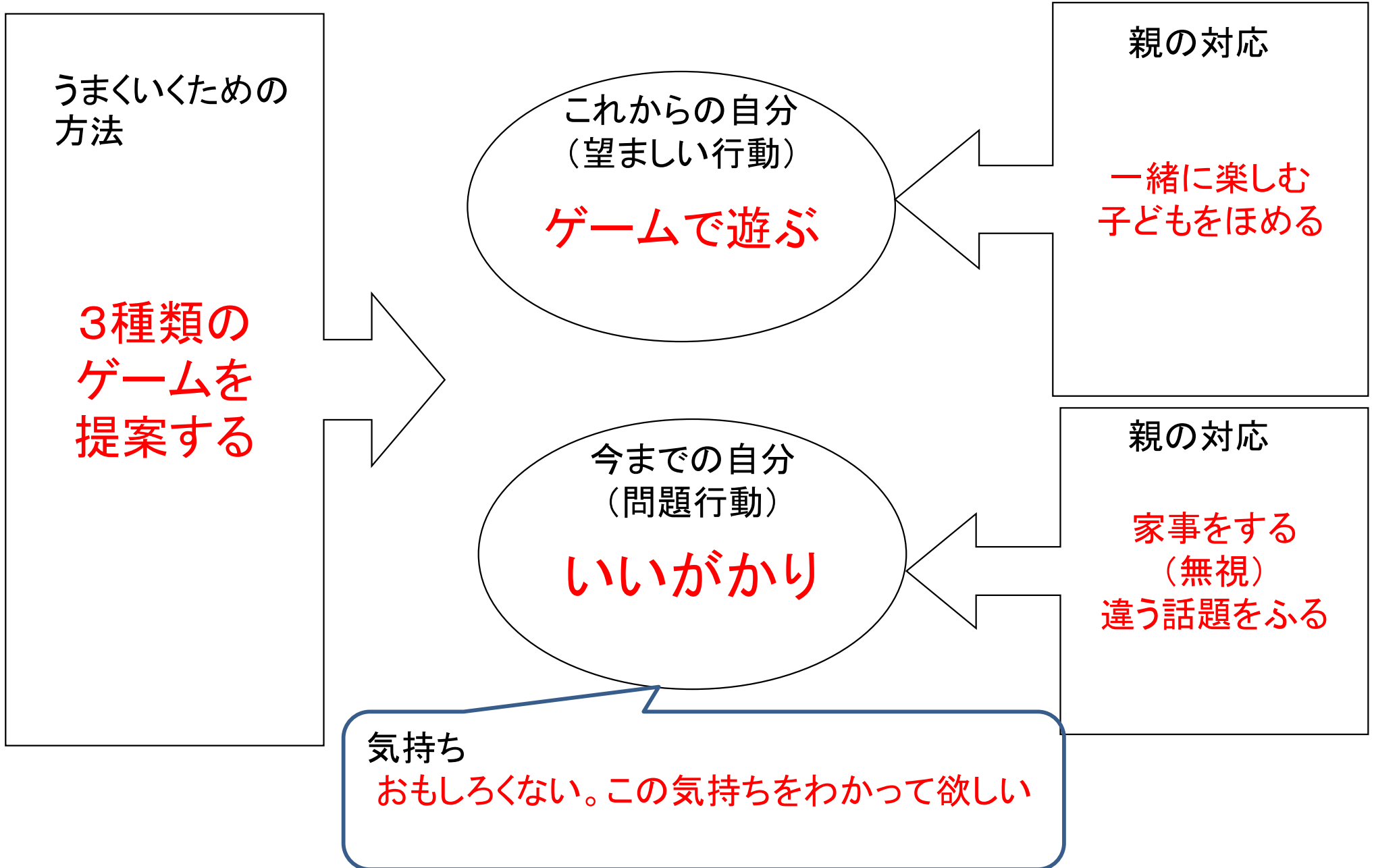


1. 問題(困った行為)が起こる状況と、今までの対応と結果を明らかにする
2. 問題を起こしているときの気持ちを考え、望ましい行為を提案する
3. 望ましい行為ができるよう、おぜんだてをする
4. 望ましい行為ができたときに、子どもが喜ぶ対応をする
5. 問題行動はできるだけかわらない、ルールを繰り返す

問題の分析



対応



問題行動まとめ



- 子どもの様子と今までのかかわりを見直す

問題が起こる前の様子、起きた後の対応

- 「～してはいけません」より、「○○しましょう」

望ましい行動、ギリギリ許せる行動を教える

- できるためのおぜんだて、やり続ける対応

事前の約束、ほめことばやごほうび

- 子どもは自己表現が未熟です

悪い流れを止めて、よりましな行為をほめる
ひとりで悩まず話し合い、対応を分担する

本の紹介:この事例の手続きが書かれています



明治図書

アオイ(中学生): ASD

- アオイ(女子)はまじめで何事にも規則通りに対応します。
- 校則もちゃんと守り、先生から指導を受けることはありません。
- 苦手なことは女の子同士のグループでのおしゃべり。
- 「空気読めないね」「今その話じゃない」などいわれ、不登校になりそう



ASDのウリは？

- 正義感が強い、まじめ

主張の正当性を評価し、対応の仕方を教える

- 論理的思考、理数系に強さを発揮

特性にあった進路、活動を勧める

- 記憶力が抜群

学習や趣味に生かす。みんなの前で評価する

- パソコンなど、機器関係に強さを発揮

問題行動や困難さへの対応を考える前に、
発達障害の強み(できること)を評価すること

ASDに求められること

- 自己理解

他者理解の困難さ、自己管理の弱さ、自分のウリ

- 自己管理

課題の優先順位など、スケジュール管理。支援ツール

- 自己解決

解決の「形」を知り、形に従い問題を乗り越える

- 自己主張

カウンセリングなどで、人とのつきあい方を学ぶ

スクールカウンセラーとの対話



気づきと自覚による問題解決

1. 対話
2. 気づきを促す(問題意識)
3. 生徒の自覚(目標)
4. 実行の具体策(支援など)
5. 気づきを促す(変化)
6. 生徒の自覚(成長)



気づきと自覚による問題解決

1. 対話

信頼関係の構築(当たり障りない話題など)

2. 気づきを促す

学校生活のこと、対人関係、会話内容、相手の反応など

3. 生徒の自覚(目標)

話題を確認する。話していいか聞くなど

4. 実行の具体策

複数人での会話練習。通級の先生

5. 気づきを促す

相手に合わせられた。自分の話に興味を持ってくれた

6. 生徒の自覚

グループの輪に入れた！

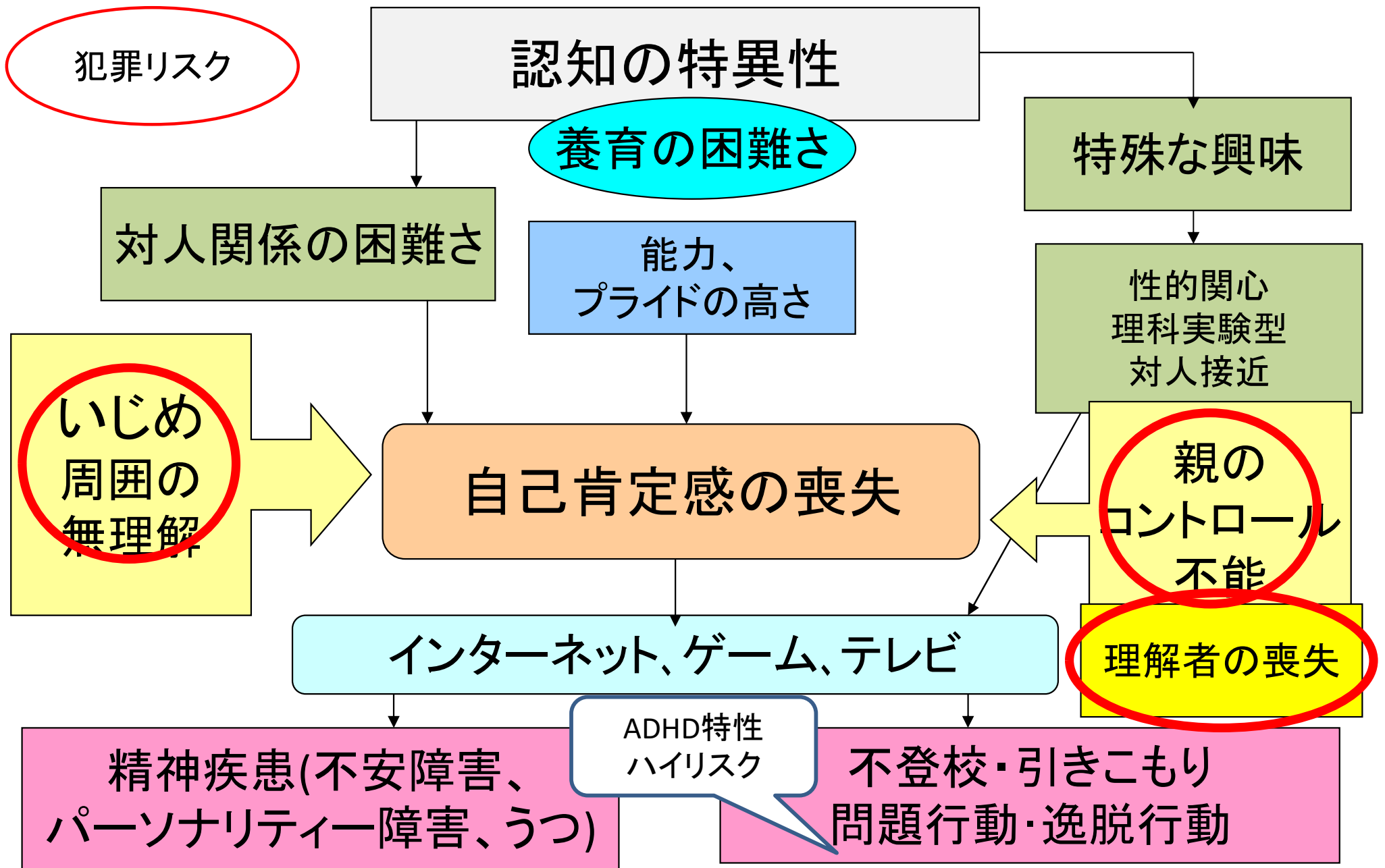


現状を冷静に俯瞰し、できることを自己選択
一歩前に進むともっと先に行ける可能性を感じ取る

5. 二次障害と女性の発達障害



ASDと二次的な問題(二次障害)



ASDの二次障害

- **ため込み症** (Storch,2016)
- **自傷行為** : 28% (Soke,2016)
- **HSP。聴覚過敏性(70%)** (Carson,2021)
- **不確実性への適応困難、不安障害** (Rogers,2018)
- **ストーカーとみなされやすい** (Stokes,2007)
- **拒食症。女子** (Brede,2020)
- **睡眠障害** (Ben-Sasson,2019)



ためこみ症への対応

- これからのルール作り
 - 「入手ルート」を絞る
 - ものに対する保管期限をきめる
 - 透明な容器に入れる → 見える → 安心
- ものを一度減らす試みを
 - 「きれいになってありがとう」





ASD特性と女性特性

- ASD特性
 - 論理的、人への関心薄い、他者理解の困難さなど
- 女性特性
 - 直感的、社交性高い、思いやりがあるなど

女性のASDの場合、女性特性がASD特性を覆い隠す
ASDであることがわかりにくい。学校生活で理解されない
([Zakai-Mashiach](#)、2022)

二次障害に気をつけること!



貴重な情報

- 思春期女子の学校生活
 - [発達障害情報・支援センター](#)–



“I Was Like a Bird Without Wings”

6. 自己理解

自分を知り、人を頼る



自己理解の実態：ASD

(Samson,2011など)

- 人より「もの」

内面、人間関係より所有物に関心を持つ

- 自分より他人に関心を持つ

他人に厳しく、自分に甘い？

- 否定的な自己像、誇大妄想的自己像

「自分は何をやってもだめ」「自分はなんでもできる」

- 自己認識を拒否。偏った見方

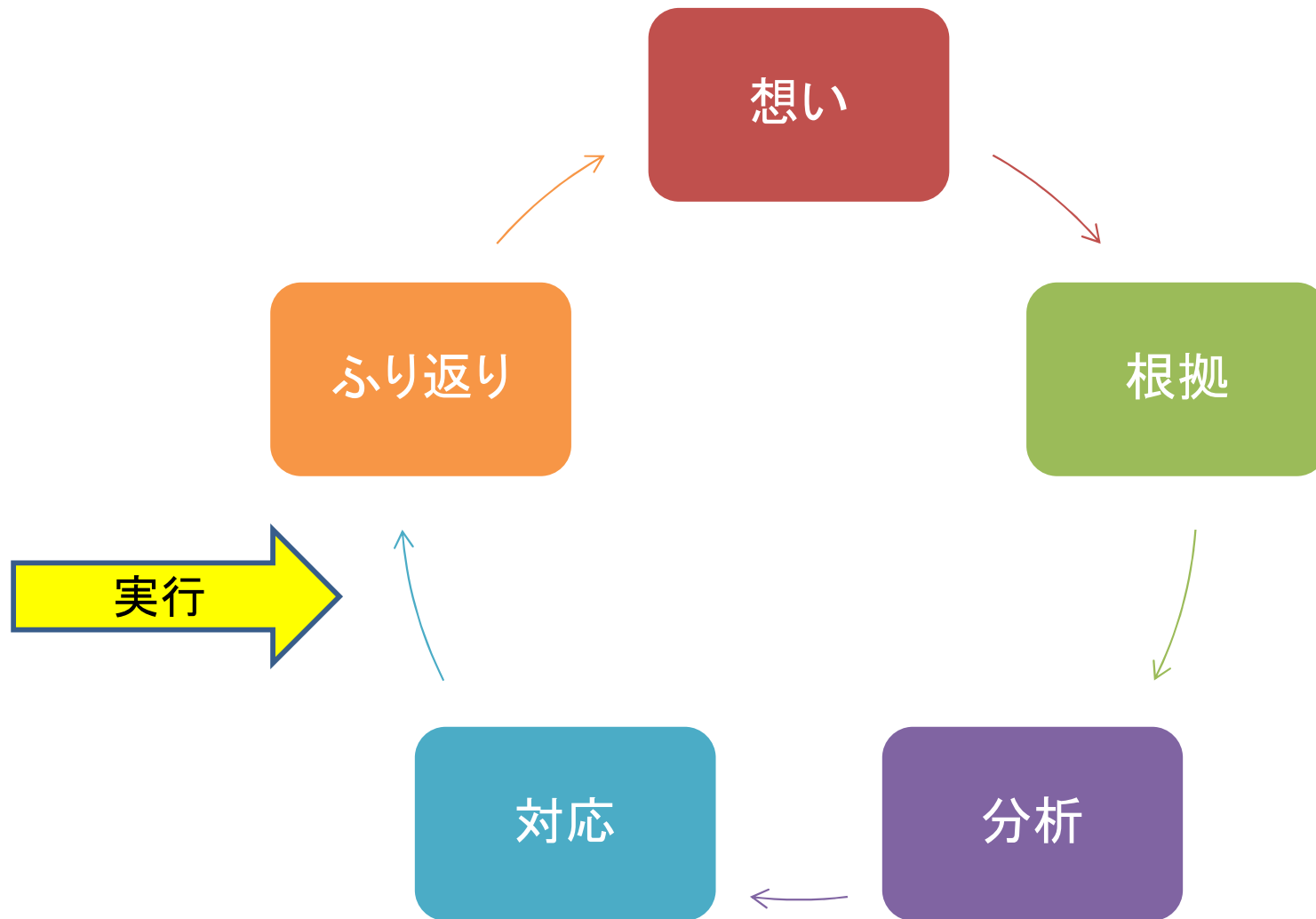
客観的、肯定的な自己認識の困難さ。
自己受容の低さ (Willoughby,2019)

自己理解の方法：基本

- 自分について書いてみる
 - [自己理解ワークシート](#)
- 自分のことを人に話してみる
 - ワークシートを使って、使わずに
- 人の話を聞く
 - 他者の考え方と自分の考えを比べる
- カウンセリング

学習院大学HPより
[新潟大学学生手帳](#)

カウンセリングによる自己理解の過程



手続き(1)

- 想いを聴く

「自分をどう思う?」「君って、どんな人?」

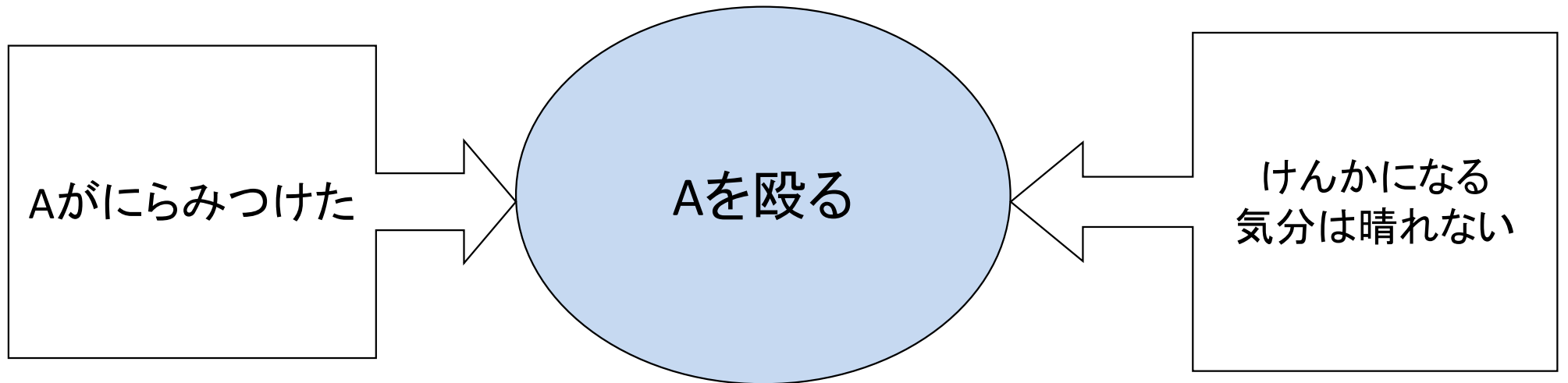
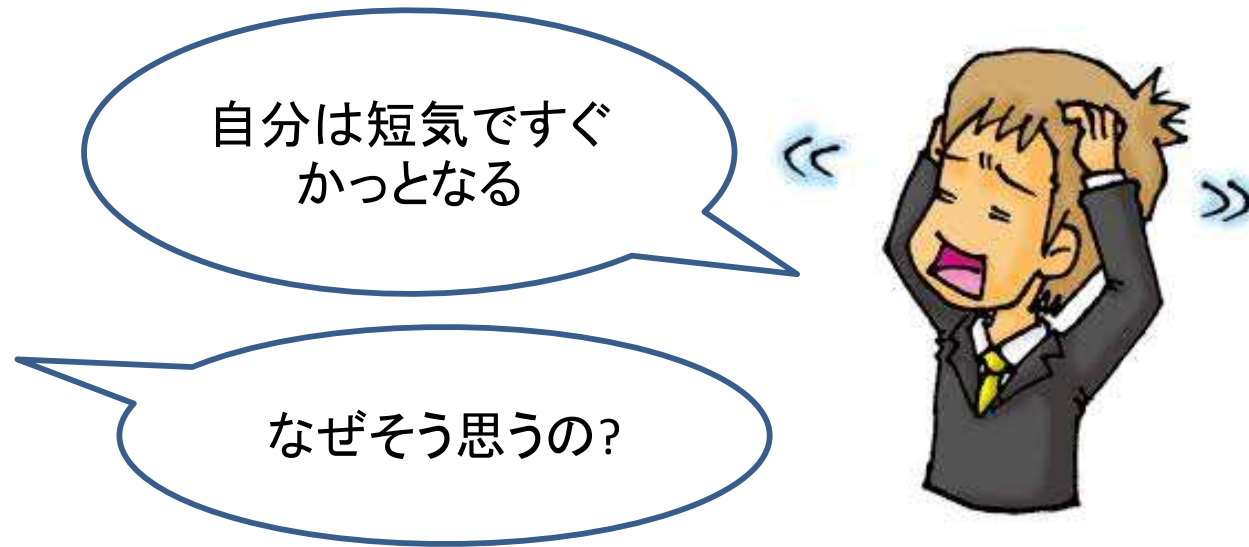
- 根拠を尋ねる

「どうしてそう思うの?」「そう考えるのはなぜ?」

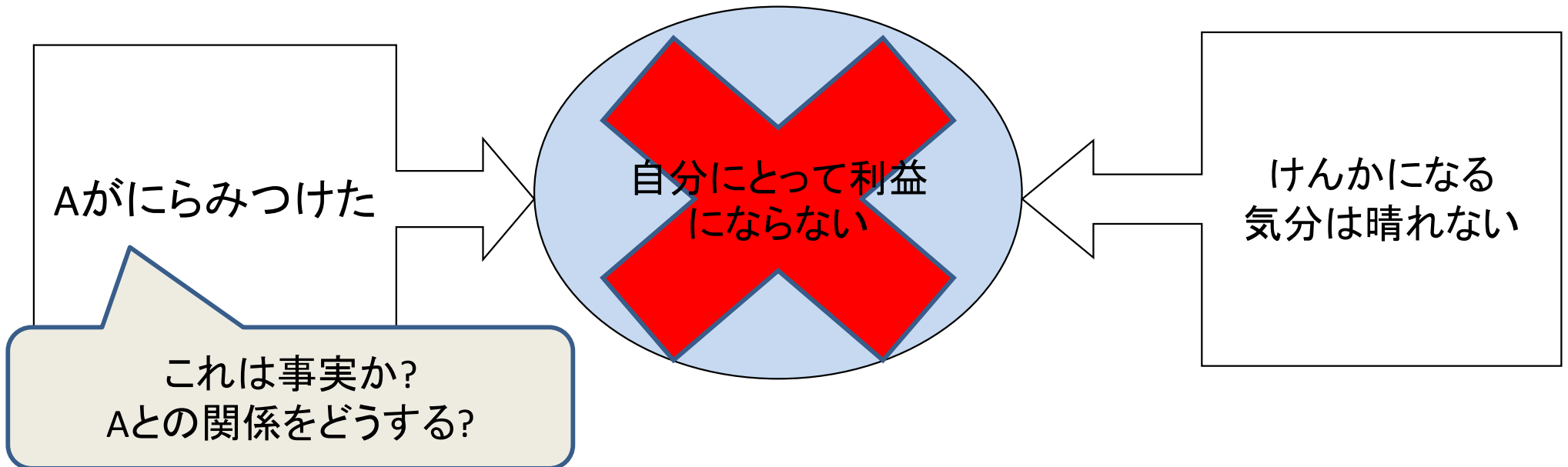
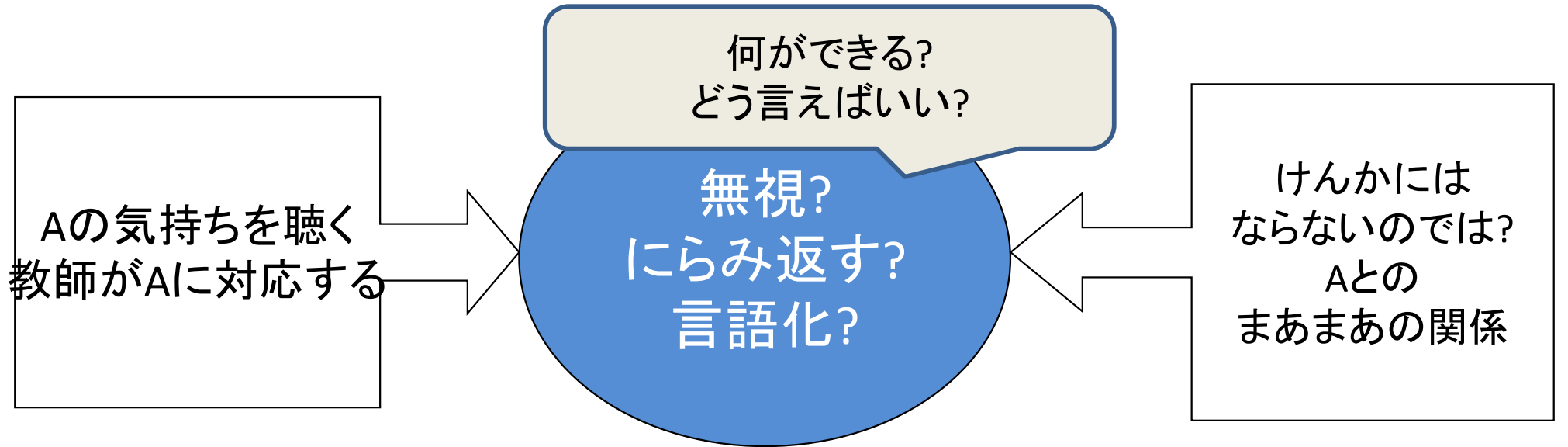
- 根拠を分析する

事実の共有、前提・結果の明確化

根拠を分析する



対応を考える



手続き(続き)

- 実行する

きめたとおりにできるように支援する

- 結果を振り返る(うまくいった)

不快な場面でがまんできる、うまく人間関係が保てる
やればできる。短気ではないのでは?

- 結果を振り返る(うまくいかなかった)

別の方法があるのでは? → 対応再検討

しかし、けんかを回避する努力をした
やればできるのでは? 短気ではないかもしれない



カウンセリングによる自己理解

- 性格や特性をきめつけるのではない

事実に基づき、今の自分の姿を冷静に見る

- 現実から、すぐ先の目標を考える

本人にとって利益になり、実現可能なもの

- 結果から、再度自分を見直す

何が正しいか、ではなく、
将来の願う姿につながる見方

対話を通して前向きな自己理解を育てる

自己理解から次の自分へ



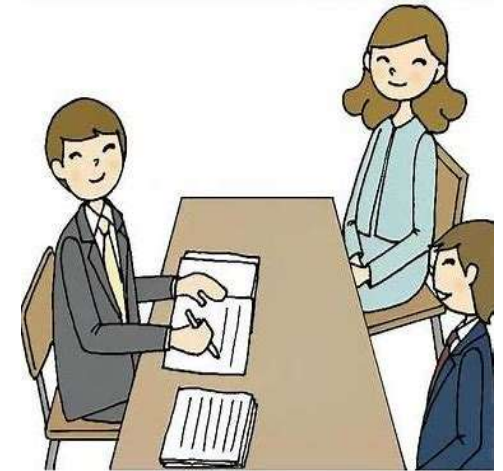
pixta.jp - 2583867

- 自分を知る
- めざすべき自分の在り方(目標)をきめる
- 目標達成の方法を考える

自己理解、それは将来の進路や仕事につながります
つなげなければならぬのです

自己理解と進路決定

- 自己理解を促す
 - 客観的で前向きな自己理解
 - 興味、関心、適性、障害特性、学力
- 自分の特性や得意なことを生かす進路決定
 - 進路決定に必要な情報収集
 - 情報の分析
 - 自分自身に向いている職種の決定



自己決定の尊重、具体的できめ細かなプログラムを
自分を知る、社会を知る



就労につながる自己理解

1. できること、していること
 - 何ができるか
2. 支援ありで、できること
 - 必要な支援を知っている(理解している)
 - その内容を相手に伝えられる

[新潟大学学生手帳](#)

自己理解：自分についての知識
できること、していること、していないこと、できないこと
特に必要なのは、「できること」「支援ありでできること」

メイ(成人)

- メイ(ASD女子)は大学卒業後に営業職に就職したが、契約が全く取れず先輩の社員から厳しく指導されたことにショックを受け、1ヶ月で会社を辞めました。
- 若者サポートステーションで成人式知能検査を実施し、言語理解に関する能力は高いのですが、状況を客観的に把握し素早く判断する能力が弱いことがわかりました。

自分の強みと弱さを知る
強みは生かし、弱さは人を頼ること

自己理解と支援(メイ)



	内容	支援	訴えることができる
得意なこと	文章を書く 文章で考えを表現する		○
できる仕事	文書作成・校正		○
支援ありでできること	会計業務、書類作成 HP作成	手順表。実施確認(人) 業務の役割を書面化。実施確認(人)	△

「得意なこと」「できること」「支援ありでできること」をビジュアルに

メイ(成人)

- メイ(ASD女子)は大学卒業後に営業職に就職したが、契約が全く取れず先輩の社員から厳しく指導されたことにショックを受け、1ヶ月で会社を辞めました。
- 若者サポートステーションで成人式知能検査を実施し、言語理解に関する能力は高いのですが、状況を客観的に把握し素早く判断する能力が弱いことがわかりました。

就職先で必要な支援を説明
書類作成業務を担当。先輩が実施を定期的に確認

支援をより高次概念へ

具体から一般化

- 必要な支援は具体的に

教師と一緒に、社会科の教材をジップロックにまとめる

- その支援はほかにも使えたのか

教師と一緒に、教科ごとジップロックにまとめる

- その支援をより高次の概念へ

支援者 + 必要なもの + 支援ツール

- 高次概念を相手に伝える

「ものの管理は、支援者と支援ツールを必要とします」
(合理的配慮の訴え)



まとめ：自己理解

- 気づきと自覚の自己理解

現状から目的意識を持ち、実行し振り返る

- できること、支援ありでできること、できないこと

必要な支援を具体的に理解し、受け入れる

- 自ら支援を訴える(そのための訓練を)

手段は問わない。人を頼ってもよいが自分でできる

- 個別計画は幸せの第一歩

なりたい唯一無二の自分になれる。
すべての不幸は人と比べることから始まるのです(人と比べない)。

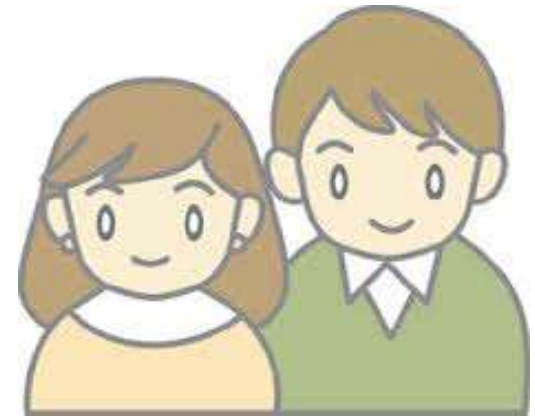
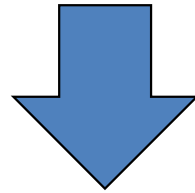
7. 最後一言

お父さん、お母さんへ
そして皆さんへ



番外：父性と母性

- 母性：無条件の保護＝やさしさ
- 父性：条件付きの愛情＝厳しさ



父性：子どもを安心させる愛着

母性：ひとり人間としての自律性

愛情より、「安心」を保障

本来の「あなた」を大切に



- 人はさまざまな「役割」を演じている

先生、課長、チーフ、主任、・〇〇さんの奥さん…

- いつしか「〇〇ちゃんのお母さん」の役だけ演じている

「私って、なんていう人だったかなあ????」

- 結果、自分の生き方に自信が持てない人が増えている

自己肯定感の低下。そのためにしがちなことは…

本来のあなたの姿、生き生きと
活動(仕事、趣味)している(母)親を見て、子どもは自立する

絆 (きずな)



- 支援を受けながらも、自分できめられる生活が自立生活
- 依存はよくないが、人を頼ることは悪くない
- 「絆」とは、支援・援助が当たり前の社会
- できることは自分でし、できないことは支援を求めよう
- しかし、どの支援をどのぐらい求めるのかをきめるのは自分自身(自己決定)

長澤研究室



特別支援教育・発達障害の情報
講演会の資料

